



〈香港キャリア事情〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

日本では「アラサー」というのが、香港では「二九十一」というらしい。働く女性が増え、平均結婚年齢も随分上がったが、二九歳と三〇歳では全然違うと感じる若い女性心理は世界共通？

本作は、香港でロングラン上演された同名の舞台劇の映画化。原作・脚本・演出も兼ねた人気主演女優キーレン・パンが、映画化に当たって監督に挑戦、こちらが大ヒットしたという。自らの体験に基づいているだけに揺れ動く若い女性の心理はリアルで、日本でも共感を呼びそうだ。

二〇〇五年の香港。化粧品会社で働くクリステイ(チャウ)はあと一ヵ月で三〇歳になる。尊敬する女性社長の下で仕事はやり甲斐があり、長年の付き合いの恋人もいて、美人でカッコいい順風満帆なキャリアアガールだ。恋人との結婚問題や実家の父親の認知症など、内心に不安を抱えながら懸命に働く。

そのがんばりが認められて、部長に昇格、ますます仕事に精魂込めるクリステイ。だが、管理職の仕事はヒラの時代とは全く違う。プレッシャーとストレスで心の余裕もなくなり、久しぶりに会った恋人とは口論になり、彼はそのまま出張へ。父の認知症も進み、深刻な事態に。しかも、住むマンションの大家からは突然の退去要求。退去期限の前日には、任されていた会社の重要なイベントがある。新居を探す余裕のないクリステイは、大家の紹介の部屋をとりあえず間借りすることに。

仮住まい先は、現在バリ旅行中のティンロ(チェン)という女性の部屋で、残されたビデオメッセージに映る彼女は底抜けに明るく元気で天真爛漫。大ファンだという歌手のレコードを手に乗れそうに部屋を案内してくれる。その屈託のない自由な話し方には、落ち込んでいたクリステイも思わず笑

顔に。あちこち見て回るうちにふと見つけた日記から、ティンロは自分と同じ日に生まれた二九歳同士だと知る。不思議な親しみを覚えながら、また自分とは全く違うこんな生き方もあるのだ、と感心しきりのクリステイ。懸命なキャリアアップのとたんに思いもよらず厳しい現実の壁に押し潰されそうな自分に比べて、なんて豊かな趣味をらしみ、自由で周りの人とも温かな人間関係に恵まれていることか。忙しさにかまけて、大好きだった父にさえ最期まで優しい言葉ひとつかける余裕のなかった自分が悔やまれる。私はいったい何のために生きてきたのか。今のままで本当に幸せなのか…。

クリステイは自分を見つめ直し元からやり直そうと、恋にも決着をつけ、会社も辞め自ら「持てる女」の座を捨てる。ひとりになった彼女の心に、日記を通して知るティンロが寄り添う。だが、ティンロとはいったい何者か。なぜバリに行ったのか。

誰もどこかで突き当たる人生の岐路。それは勝敗や評価を越えた自分自身の選択だ。クリステイは本当の自分の道を描めるだろうか。そして、等身大のティンロは…。香港の女性事情も興味深く、謎も含み見応えある女性映画だ。



『29歳問題』

香港映画(111分)

監督：キーレン・パン

出演：クリッシー・チャウ、ジョイス・チェン、ベビージョン・チョイ、ベン・ヨンほか

5月19日より YEBISU GARDEN CINEMA ほか全国順次ロードショー

© 2017 China 3D Digital Entertainment Limited